

RKK Group Magazine りゅうかい

RYUKAI



2019 No.291
秋季号

台湾 十分瀑布

夢と暮らしと文化をはこぶ



琉球海運株式会社

琉球海運グループ

沖縄港運(株)
(株)沖縄輸送サービス

宮古港運(株)
(株)九州輸送サービス

八重山港運(株)
(株)きょうはい

沖縄荷役サービス(株)
国際輸送(株)

(株)沖縄急送
琉海リース(株)

トップ エッセイ

意外と知られて いないイギリス の歴史

株式会社 沖縄急送

常務取締役 前 森

正



最近あることがきっかけで一念発起し、しばらくなおざりにしていたフランス語の勉強に再度勤しむことを決意した。そのきっかけとは、先日ある外国人に英語で道を聞かれた時のことである。その外国人の話す英語の発音に何か違和感を覚え、「何処から来られたのですか？」と英語で尋ねるとベルギーからの答

えにすかさずフランス語で返事してしまったことにある。まるで仮死状態であった脳細胞の一部が突如覚醒したかのような瞬間だった。昔取った杵柄とは言わないが、私のフランス語はまんざらではなかった。うまく通じた。思い起こすと以前にもこれと似た経験をしたことがある。それは、かれこれ三十年前に会社

にかかっていた一本の国際電話であった。後にフランスの「アヴィニオン」という都市からの電話とわかり、フランス語で会話したことが懐かしい。アヴィニオンの人のフランス語は、アルファベットの「R」の発音に特徴があり、南部独特の訛りがある。要件は、船舶のスケジュールについての問い合わせであったのである

が、私なりに丁寧にフランス語で応対してあげたせいか、後日そのお札に自家製のブラリネを送ってきてくれたことも遠い昔の話だ。大学在学時に第二外国語で履修したフランス語が大いに役に立った。元々、英語・英文の専攻であったが、その傍らフランス語にも少なからず興味を持っていた。特に、その文体論、

そして英語との比較言語学には当時から関心があった。そんな物思いに耽っているとふつとあることが脳裏を掠めた。それは、「フランス人は英語で話しかけられると、わざとわからないふりをして答えてくれないそうですね？」という風説である。その真偽のほどは定かではないが、逆にフランス語で受け答えるのと好感が持たれる気がする。

ように、フランスの隣接国で英語を母国語として話す国はイギリス以外にはないのである。ところで、イギリスとフランスはまったく別々の国家と捉えられているが、歴史的にはイギリス王家にフランス人の血が入っていることをご存じだろうか。言語に関して

族をはじめ社会の上層階級はみんなフランス語を話し、英語は小地主あるいは農民の言葉に成り下がってしまった。このように、次第にフランス語がイギリスの公用語となり、その後三〇〇年続くことになったのである。実にその数一万語以上というから驚きである。以前、私の友達のイギリス人に「ノルマン征服」

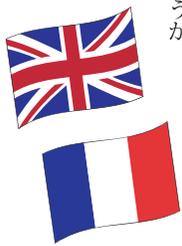
者が貴族であるフランス人にていぶる場合の呼称の違いを示している。このように、フランス語を話す上層階級と英語を話す下層階級というふうに社会が二分されてしまった。他にも多くの例があるが、紙面に限りがあるので割愛する。このように、英語はフランス語のボキャブラリーを借用することによって語彙が増えてきたことは紛れもない事実である。念のために付け加えておくが、関連があるのは語彙だけであって、文法についてはお互いに構造を異にする言語ということである。

フランス人は昔から自国語の伝統を尊重する民族であるし、特に七十代以上のフランス人なら「フランスに来るんなら、少なくとも基礎的なフランス語くらい勉強して来なさい。」と一喝されるぐらいのことはあるのである。他方、二十五年前に開通したユーロトンネル（英仏海峡トンネル）により、フランスとイギリスが陸続きになったこともあり、フランス人の若者が英米文化に関心を持つようになったのも時代の変化と言えるだろう。西ヨーロッパの地図を思い浮かべてもわかる

母であるラテン語から生まれたフランス語の半分以上はフランス語、またはその母であるラテン語からもたらされている。なぜだろう。その理由が、西暦一〇六六年の「ノルマン征服」であったことは言うまでもない。この時を境に、ブリテン島は約六〇〇年保たれてきたゲルマン文化との繋がりが断ち切れて、その代わりにフランス支配のラテン文化と濃密な交わりを始めることになる。「ノルマン征服」後のイギリスは、貴

それでは、ここで興味深い例をいくつか紹介しよう。私たちに身近な「牛」や「豚」、「羊」について、それぞれ二つの単語があてがわれていることに気づくと思う。牛だと、COWやBEEF、豚だとPIGとPORK、羊だとSHEEPとMUTTONといった類いである。これらは、前者が一般階級のイギリス人が飼育している動物そのものであり、後

冗長で取留めない話になってしまった。ただ、このような時代背景を念頭に置いてイギリスという国を旅するのも、これまた一興ではないだろうか。



RKK 中城総合物流センター 完成披露

十月七日(月)、うるま市国際物流拠点産業集積地域にあるRKK中城総合物流センターの完成内覧会が行われました。RKK中城総合物流センターは琉球海運の一〇〇%子会社である琉海ロジステイクス株が運営しており、延床面積一万七〇〇〇平方メートルを超える物流施設で常温・冷蔵・冷凍の三温度帯で荷物を管理しています。

当日は取引先を含めた多くのお客様がお見えになり、最大級かつ最新鋭の設備をご覧いただきました。今後は倉庫内作業の効率化と正確性を追求し、安定的なサービスを提供できるよう努めてまいります。



仕分けソーター



ピックトゥ自動倉庫



センター外観

「海の日」 海事関係功労者表彰

七月十九日(金)、沖縄かりゆしアーバンリゾート・ナハにて『令和元年「海の日」海事関係功労者表彰式典』が行われました。この表彰式は「海の恩恵に感謝するとともに、海洋国日本の繁栄を願う日」である海の日を国民に広めるために開催されております。

当社からは沖繩総合事務局長表彰の優良船員部門にて三名の職員が表彰を受けました。受賞おめでとうございます。

優良船員

船長 與那嶺 紀 幸
船長 友利 克 信
船長 仲地 忠 広



與那嶺 船長



仲地 船長

また、山城博美会長が第十一管区海上保安本部長の葛西様から、感謝状が授与されました。おめでとうございます。



優良船員 (前列左から3名)



山城会長 (前列右から2番目)

八重山港運(株) トラックの日 クリーンキャンペーン・安全運転講話会

10/9(水)は「トラックの日」となっております。この「トラックの日」にちなみまして石垣島では、沖縄県トラック協会八重山支部主導のもと、10/13(日)に「道路クリーンキャンペーン」が行われました。弊社からも数名参加し、常日頃使用している道路の清掃活動を行いました。まだまだ暑い中での作業となりましたが、皆様お疲れさまでした。

また、10/21(月)には「交通事故と飲酒運転根絶についての安全運転講話会」が行われました。運送業等も取り扱う職業柄、切っても切れないテーマですので、何度も講話に参加しておりますが、やはり身近に起こりうる事故の動画や事故の被害に遭った方の話などを聞くと自分も気を付けようと再度気が引き締まります。

今年も残りわずか、無事故無違反で乗り切りましょう。では皆様ご安全に！

総務部 金城



トラック協支部が清掃
道路2カ所で除草や枝落とし

(公社) 沖縄県トラック協会八重山支部(平田正明支部長)は13日午前、石垣市内の道路約2.5kmの清掃作業を行った。
清掃作業は、パンナ公園北口道路と嘉田大里農道線の2カ所を実施。支部会員は草刈り機や電動ノコギリなどで、道路の雑草を除草。道路にはみ出している街路樹の剪定を行い、道行くドライバーの視界を良くした。
同取組は、10月9日の「トラックの日」イベントの一環として「トラックは生活と経済のライフライン」がテーマ。
除草作業を行うトラック協会八重山支部のメンバーは13日午前、パンナ公園北開

(株)沖縄輸送サービス

社内講習会

7月～9月の第一月曜日、社員の業務に対する意識向上の一環として、本社・東京支店の職員を対象に社内講習会を開催いたしました。全3回の講習会は、琉球海運(株)寺内特別顧問を講師としてお招きし、海運業にまつわる各回のテーマについて、いろいろな角度からご講義いただきました。

船舶や海上輸送の基本的な知識から、国内外の物流の現状、今後目指すべき物流のあり方についてなど、沖縄や国内の海運に留まらず、国際的な物流全般についての幅広く専門的な知識まで、詳細な資料を基に実体験を交えた実に興味深い内容でご講義いただきました。

今回の講習会は若手から管理職までの社員を対象にしており、それぞれ職務内容に違いはありますが、自分達の携わる業務、業界について、改めて知識を深めることが出来た大変貴重な機会となりました。

このような講習会を定期的に行うことで、職員の業務意識向上や活性化につなげ、職員全員が社業とRKKグループの発展に貢献できる人材に成長していけるように、今後もさらに充実した職員育成環境の充実を図りたいと思います。



曙小学校 港湾施設見学会

11月12日(火)、沖縄総合事務局主催にて那覇市立曙小学校の5年生総勢44名が「海事教室」のモデル校として、港湾施設の見学会が実施されました。当初は本船の見学を予定しておりましたが、スケジュールの関係で港湾施設の見学に変更となりました。

児童達は前日に沖縄水産高等学校の講師から物流や海運業の講義を受け、当日是那覇新港にてトレーラーヤード、空コンヤード、那覇港総合物流センターの見学となりました。那覇港総合物流センターでは実際に内部へ入り、沖縄港運(株)津波次長の案内で建物からヤードを眺め、倉庫に保管されている貨物を見学したりと児童達にとって普段は中々目にするのでできない仕事現場に興奮の連続でした。また、見学中は多くの質問が飛び交い、非常に興味が湧いている様子でした。

今回の見学会は児童達だけでなく引率の先生方も勉強になったそうで、海事産業の認知度向上に貢献することができました。

船舶部 嘉手苅



NICTも見学しました



センター内を見学中

第5回 船主安全会議

10月21日(月)、琉球海運本社会議室におきまして「第5回船主安全会議」が開かれました。これは、当社が不定期航路運航のために用船している船舶のオーナー様と、当社役員、営業部・船舶部の担当者が集まり、船舶の安全運航についての意見交換を行うものです。

会議では、悪天候時の運航中止についてを含めた運航管理規定の見直しやヒヤリ・ハット事例の積極的な報告と共有、船舶の事故やトラブル、SOx規制についての議論がなされました。いずれについても、陸上側のオペレーターやオーナー、海上の乗組員との間での積極的な情報共有を行い、運航可否の適切な判断や、ヒヤリ・ハット情報の周知の精度を高めていく必要があると再確認しました。

今後とも、当社陸上職員と乗組員、船主との間での連携を密にし、安全運航に努めていきます。



オリオンビアフェスト2019

ケツメイシ「カンパイの唄」、BENI「HAPPY」、HY「SESSION」。

こんな豪華アーティスト陣の楽曲に共通することはいったいなんでしょう？そう、みんな大好きオリオンビールのCM曲なんです！

2019年もこの時期がやって参りました～！オリオンビール株式会社主催の「オリオンビアフェスト2019」が各地で行われました。今年は7月に石垣市と宮古島市、8月に沖縄市、10月には沖縄を飛び出して台湾・台北市で開催され、毎年盛大に盛り上がっています。



～ in 沖縄本島 ～

沖縄本島は8月24日(土)・25(日)の2日間、会場は毎年恒例の沖縄市コザ運動公園サブトラック内にて開催され、初日の24日(土)に参加いたしました。

今年は去年とは違い天候も良く、ビールを飲むには打って付けのジメジメ具合(笑)

会場はビール党の方々と賑わっており、当社職員は他のお客さんに負けず気合い十分で、テーブルには欠かさず冷えたオリオンビール様の商品と数々の美味しい食事が準備され、三つ星片手に会話も弾みました。

もちろんビアフェストにはライブが欠かせませんよね！ライブ終盤大トリにはダイヤモンドスのライブがあり、ノリノリで楽しい夜が終わりました。



人の多さに驚きです…

～ in 台北 ～

台北は10月19日(土)・20(日)の2日間、会場は花博公園圓山園区花海広場にて開催され、初日の19日(土)に参加いたしました。会場の公園は2010年に台北国際花博覧会が行われ、今は都市公園となっているとても綺麗な場所です。

去年の秋季号で、「来年こそは台北のビアフェストに行きたい」と言いましたが、まさに有言実行いたしました！沖縄では日本語と英語が飛び交っていましたが、台湾では会場全体で中国語が飛び交い、現地の方が多く参加しているんだなと感じられました。

当日の天気は雨予報でスタート時は時折雨が降っていましたが、傘を持ちつつ右手のビールは離さないスタイルを保ち、そのビール愛あってか終盤は天気に恵まれて傘無しでライブを楽しむことが出来ました。

(異国の地で見るダイヤモンドスはなんだか違うような気がしました…。)



台湾事務所と永安船務メンバー

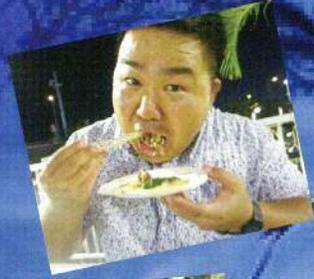


RKKグループ 観月会



9月25日(水)中秋の名月のもと、琉球海運グループ合同の観月会が開かれました。当日は総勢約190名が参加し、琉球海運総務部・石新部長の開会挨拶で幕を開けました。今年の司会者は男3人浴衣にはっぴ姿で登場(爽やかさ全開トリオ...)。ジュージュウと焼かれたお肉、香ばしい焼き鳥にあちこーのウインナー、のどごし抜群のビール...最高の食べ物が揃えば楽しくないはずがない! 終盤には、豪華商品の当たる抽選会もあり、今年もグループ各社の方々と楽しい懇親のひと時となりました。

参加された皆様、司会のお三方、ありがとうございました。



皆さま今年度の観月会もお楽しみいただけましたか?
今年司会を務めた2018年度入社3人の性格は、基本的に物静か(落ち着いた性格とも言える換えることができます...)でございます。皆さまが楽しめる観月会とは何かと3人で考えた結果、企画部代表の藤田のアドバイスを受け1997年1月に就航した「にらかない」就航を記念した際に作成されたハッピーを着た司会をする事を決めました。過去の先輩方からのプレッシャーもありましたが、私たちがいい観月会の司会ができたと感じています。
来年以降も入社年度によって雰囲気異なる観月会を楽しんでいただければ幸いです(^^)
営業部 喜舎場



安田さん「船の操作は俺に任せる！」



真剣に仕事しています、松元



宮城船長と一緒に「私たちがRKKのKing&Princeです。」

令和初の乗船研修

琉球海運の毎年恒例になっております、新入社員乗船研修が8月下旬に実施されました。今回はグループ戦略室安田さん、営業部内間さんも一緒に5名の船内研修となりました。

「船内で何が起こるか分からない。」「船酔いしたらどうしよう…。」

期待と不安でいっぱい、令和初の乗船研修に参加した社員の感想記事をどうぞ！

八月二十六日から八月三十一日にかけて、乗船研修に行きまして、入社して半年が経ち、日々の業務にも少しずつ慣れてきた中で、陸上とは異なる海上の業務について学べるこの機会をとっても楽しみにしていました。

初日から二日目にかけて、ちゅうらしまにて船内研修を行いました。沖縄から本州へ船で向かうのは初めてだったので、出港はとても新鮮に感じました。ブリッジから見えた那覇の街は、飛行機から眺める時とはまた違った雰囲気がありました。出港の際に驚いたのが、想像していたより静かに航行したことでした。離岸時はスラストの影響で振動がありましたが、バースから離れるとさほど揺れはなくなり、航行している船の上とは思えない程静かでした。ブリッジでは旗章を掲げる作業を行い、入出港および利用する航路

毎で掲げる旗章の種類が異なることを学びました。午後にはブリッジにて操船を体験しました。思っていたより舵ハンドルは小さく、軽いので緊張感がありました。舵を切りすぎるとエンジンに負荷がかかってしまうため、舵を調整しながら走るのに苦労しました。乗組員も燃料費とスケジューリング調整に苦勞しているとのことでした。船自体も船形やエンジンによって速さが異なるため、それぞれの特性に見合ったスケジューリングを組む重要性を認識しまし

た。研修中は、船で食事を頂く事ができました。司厨長一人で乗組員全員の食事を用意している事は、大変凄い事だと思いました。頂いた料理はどれも格別に美味しく、特に魚のあら汁は最高でした。

那覇向けしゅれいⅡでは、機関部研修にて室内の清掃業務を行いました。機関部は室内温度が高く、階段や手すりのモップがけ作業でさえ体力を使うと感じました。清掃作業は毎日行っており、油污れを避けるためにも必要な業務であると学びました。大阪入港時には、綱出し作業を実際に体験しました。綱はかなり重量が有り、一人では動かすのがやっとでした。入港時、岸壁にラインを投げる作業を行いました。ラインを投げる際、ロープが絡まってしまい岸壁まで届きませんでした。船上での業務は、一つ確認を怠る事で危険に陥る可能性が高いことを身をもって知りました。当直の二〇時〜



企画部
長 領 純

〇時ワッチでは、目が慣れるまではリーダーで船を確認していましたが、次第に慣れてくると、航海灯で船の位置が分かるようになりました。ブリッジの外に出ると星空が広がっており、眺めていると研修の疲れも忘れてしまう程綺麗でした。

各支店での研修では、それぞれの業務内容や航路環境の特徴について学ぶ事ができました。

荷主や貨物の種類にも特徴があり、支店によって業務内容や営業方法が異なる事を学びました。また、各関連会社への挨拶回りをすることができました。中々支店や関連会社の方々との顔を合わせる機会がないため、大変有意義

た。研修中は、船で食事を頂く事ができました。司厨長一人で乗組員全員の食事を用意している事は、大変凄い事だと思いました。頂いた料理はどれも格別に美味しく、特に魚のあら汁は最高でした。

那覇向けしゅれいⅡでは、機関部研修にて室内の清掃業務を行いました。機関部は室内温度が高く、階段や手すりのモップがけ作業でさえ体力を使うと感じました。清掃作業は毎日行っており、油污れを避けるためにも必要な業務であると学びました。大阪入港時には、綱出し作業を実際に体験しました。綱はかなり重量が有り、一人では動かすのがやっとでした。入港時、岸壁にラインを投げる作業を行いました。ラインを投げる際、ロープが絡まってしまい岸壁まで届きませんでした。船上での業務は、一つ確認を怠る事で危険に陥る可能性が高いことを身をもって知りました。当直の二〇時〜



青空と大海原と中田

青空とCHURASHIMAと中田



長嶺「ラッシングは俺までご連絡を！」

しゅれいIIと
お台場Boys



「重いっ…」思わず笑っちゃう内間さん



支店研修もお世話になりました



包まれていく長嶺…

八月二十六日(月)から八月三十一日(土)まで五泊六日の日程で、令和元年度新入社員乗船研修に行つて参りました。今回の研修ルートは、博多まで「ちゅらしま」に乗船し、空路で東京に移動後「しゅれいII」で大阪を経由して那覇に戻ってくるというもの、陸上では唯一博多に泊まりました(生まれて初めて陸より海で過ごす時間が長い一週間となりました)。研修期間中、海上では主に船内業務や船での生活を体験し、陸上では各支店職員の方々と支店業務の内容や各地の特徴等を伺うことができました。本稿では、研修内容を海上と陸上の観点から二つに分けて述べたいと思います。

まず、乗船中に行つた業務に関してですが、ラッシング作業や出入港見学、ロープ出しやワッチなど初めて経験することばかりでした。船内見学を兼ねたラッシング中は、フォークリフトやシャーシが荷役作業を行う様子も見ることができました。荷役作業は、出港までの限られた時間内での業務ということもあり、狭い船内でも非常に無駄なく効率化されたものでした。それと同時に、大型車輛が行き交う中で作業は、最大限安全に配慮しなければいけないということも肌で感じました。出入港時は、スラストを用いての離岸から港を抜けて沖に出るまで、港に入つて接岸するまでの流れを見学しました。オモテ(船首)ブリッジ、トモ(船尾)に配置された人員と無線で連携しながら、船長の指示を素早く復唱、伝達しながら船を動かし始める様子は壮観でした。「しゅれいII」にて一六―二〇時でワッチに入つた際は、毎時丁度に船の現在地を海図に書き込み、実際の航路とのズレやどれだけ進んだかを計測する作業があり、三回ほど行いました。その他にも、イルカが跳ねて遊んでいる様子を見たり、水平線に日が沈んでいく様子や満天の星空を満喫することができました。

陸上では、東京・大阪・福岡の各支店訪問及び業務内容についての説明や関連会社への挨拶回りを行いました。支店職員の皆様からは、航路別の貨物や荷主の特徴、競合他社との関係や業務の内容についてお話を伺いました。人員の少ない支店では、一人一人に割り当てられた業務が細分化されており、かつ専門性の高いものが多いと感じました。特に印象に残った点はブリッジ業務に関するものでした。サイ



総務部
松元 拓末

な時間となりました。本社とも違い各々支店によっても雰囲気は全く違うのが驚きでした。乗船研修を通して、陸上業務とは業務内容および就労体制が大きく異なることを改めて認識する事が出来ました。日々の業務を行うにあたり、海上や各支店との関連性を意識しながら取り組んでいきたいです。最後に、乗船させて頂いたちゅらしま、しゅれいII乗組員の方々、支店の職員の方々、研修をサポートして頂いた本社の皆様本当にありがとうございます。

ズの異なるコンテナや自動車を、デッキにどれだけ上手く配置できるかで積載量、ひいては収益に影響する、という点では担当者の力量が問われる重要な業務だと感じました。また、各地での生活環境といったお話もしていただきました。今回の支店訪問では、将来自分が支店へ移動になった際のイメージを、僅かながら掴むことができたように思います。

最後になりましたが、「ちゅらしま」宮城船長、「しゅれいⅡ」平良船長をはじめとする海上職員の皆様、お世話になった各支店職員の皆様及び関連会社の皆様に厚くお礼申し上げます。今回の研修で得た経験を糧にして、より会社に貢献できるよう日々の業務に励んでいく所存です。



営業部
中田 悠斗

今年度の乗船研修は、八月二十六日月曜日に那覇発博多行の「ちゅらしま」に乗船し、博多到着までの間は船内で研修。翌日、二十七日は博多到着後、福岡支店で研修をし、博多のホテルにて一泊。二十八日は飛行機で東京へ移動後、東京支店にて研修。研修後は、東京発大阪行の「しゅれいⅡ」に乗船、船内研修、大阪支店と南港事務所にて研修、荷役作業を見学後、再度乗船し、那覇新港到着まで船内研修とあったスケジュールで行われました。一日目、那覇新港からちゅらしまに乗船しました。シャーシのラッシング

作業の体験をし、現在は「オートラッシング装置」といわれる機械があり、空気圧でベルトを巻きとり、ロックすることで以前より少ない人数で、効率的に作業を進めることが出来ると教えて頂きました。

ラッシング終了後、船橋に立ち、船長と航海士の皆さんと出港のためのワッチを行った。当然ではあるが、集中して出港するため、船橋の中は緊張で空気が張り詰めているように感じました。

船内の案内をして頂いた中で、印象的であったのが機関室です。機関室はエンジンやスクリーンの近くにあるため機械や計器類が多く、何もしていないだけでも汗が出るほど暑く、常に脱水症状や熱中症に気をつけられないほどでした。

船内の案内が終わると、再び船橋に上がりワッチを行った。出港時は張り詰めていた空気はそのときなく、談笑しながら海図やAIS（デジタル海図）の見方、各港のルール（制限速度など）を教えて頂いた。最初はその地図に見えた海図だが、その中には重要な情報がたくさんあるのだと知ることが出来ました。

二日目、朝九時頃からワッチをはじめ一二時に博多へ到着した。入港の際も、船の往来が多いため出港時同様に集中しているように感じた。支店では長嶺支店長と金城副支店長による勉強会を行って頂きました。

三日目、福岡県全域に大雨特別警報が発令されていたが、空港までたどり着くことが出来た。しかし、予約していた便の飛行機にトラブルがあり、欠

航となったため振り替えの便に乗り、予定より二時間半ほど遅れて東京支店に到着した。時間が無い中、支店の各担当者が行っている日々の業務を教え、取り先等に挨拶、荷役作業を見学後、しゅれいⅡに乗船した。食事後、船橋に上がり出港して浦賀水道を抜ける間の二時間ほど、ワッチを行った。すでに外は真っ暗でどのように他の船の場所や本船の位置関係を把握しているのかなど、丁寧に教えて頂きました。

四日目、この日は朝のミーティングから夜無人になる前のMO（エムゼロ）チェックまで、一日中機関部で見学と簡単な作業を手伝わせて頂いた。前述の通り、掃除をするだけでも汗が噴き出すほどで、エンジンと他の機械の音で声を張り上げないと会話ができない状況でした。

五日目、ワッチを新入社員三人で時間帯を割り振った。私が双眼鏡を覗かないとわからない船を船員の方が裸眼で見つけてしまうことに驚いた。また、舵を操作するハンドルを触らせてもらうなど、とても有意義な時間であった。

六日目、六時半から綱だし準備などを行い、船長と各部署の研修を見て頂いた。方々にお礼をして、解散しました。

最後になりましたが、ちゅらしま、しゅれいⅡの職員と各支店、研修におつきあい頂いた方々、研修当日だけでなく、お忙しい中資料の作成等、お時間をいただきました。ありがとうございます。



ご協力していただき、ありがとうございました！

乗船研修記、いかがでしたか。今回台風の影響で、福岡から東京へ移動する際の飛行機トラブルがあり、支店研修のスケジュールが変わってしまったようです。しかしそこは安全第一！臨機応変に研修内容を調整して、無事終えることが出来たようです。船酔いもしなかったようで、令和初の乗船研修はとても充実していたようです。今回の研修でよりパワーアップした琉球海運社員は、令和も頑張っ



台湾研修記

こんにちは、琉球海運(株)営業部外航課の宮平睦月と申します。8月19日から約2か月半台湾事務所へ研修に行きまして参りました。あっという間の研修期間でしたが、この機に少し台湾についてご紹介できればと思います。

実は大学時に1年間台湾へ留学していたので大きな不安はありませんでしたが、学生とは違う立場での台湾滞在で心配もありました。事務所では高崎所長の指導を仰ぎながら、台湾にある日系物流企業・ローカル企業を廻ったり、代理店での研修・週末は高雄現場視察へ行ったりと台北にとどまらず北から南まで台湾各地を廻ることが出来ました。

また、滞在時に強く感じたのは台湾と沖縄の強いつながりです。この2か月半で沖縄の大学生らの事務所研修・沖縄-台湾間ビジネスマッチング・琉球銀行主催のプレゼンテーション・オリオンビアフェストin台北など、何かと沖縄にかかわる機会が多くありました。普段のブッキングからも商流を垣間見ることはできますが、台湾間との輸出入を考えている企業と直接交流し、機会はあるとすぐには繋がらない貿易の難しさを海外で客観的に感じることが出来ました。



竹製ストロー

仕事以外で私が台湾に住んで面白く感じたのは、エコ意識の高さと自然の多さです。エコ意識については、例えば地下鉄に乗る際切符は紙ではなく再利用できるコインを使用しています。また、コンビニ・スーパーではレジ袋は有料で、レジ袋があるかどうかを質問しません。話題のプラスチックストロー廃止については、台湾にはドリンクスタンドが多いからか最近では紙ストロー・マイストロー(ステンレスや竹・ゴムで出来ているもの)も見かけます。

自然の多さは台北都心にいると普段気づきませんが、台中・高雄方面に行かなくても地下鉄や電車で気軽に行ける範囲に自然が多くあります。たまに平日夜に台湾人の友人と碧潭というところで川沿いを歩いたり、休日は高雄出張が無ければ郊外の十分まで行って滝を見たりと自然も満喫できました。

台湾は安くて美味しい食べ物・お寺などのイメージが強いと思いますが、是非遊びに行く際は周りには自然も楽しみながら、台湾の文化を感じてみてください。

琉球海運(株)営業部外航課 宮平



牛肉麵屋にて



碧潭の川とモニュメント

台湾ミニニュース

いま日本ではタピオカミルクティーが流行っておりますが、そのドリンクスタンド系で日本でもあまり浸透していないであろうものをご紹介します。

それが「ヤクルト緑茶」。名称通り、ヤクルトが入った緑茶です。想像できないと思うのですが、これが凄まじく美味しいんです！トッピングでタピオカを入れるとさらにパワーアップし、令和で流行ること間違いなしかと思えます。

また、台湾は緑がいっぱいで休日は観光客も含め、各地でたくさんの方が見受けられます。琉球海運より沖縄県産業振興公社台北事務所に出向しております真栄平さんのご家族も楽しんでいるそうです。

ドリンク片手に緑いっぱい台湾で休日を楽しんでみてはいかがでしょうか？



真栄平さんご子息

新任あいさつ



営業部

又吉 正一郎

9月1日付けで琉球海運本社営業部に採用となりました、又吉正一郎と申します。
留学と中国現地採用等で10年ほど海外生活をしており、前職は中国OEM工場で主に総務を従事しておりました。久しく日本に戻っておらず日本語を忘れかけ、今回未経験の営業職もあり不安の日々でしたが、諸先輩方の優しいフォローで日々勉強させて頂いております。琉球海運の一員として一日でも早く皆様のお力になるべく精一杯努めさせて頂いておりますので、どうかご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



グループ戦略室

武田 恵里

この度、9月1日付で契約社員としてグループ戦略室配属となりました武田恵里と申します。前職ではMICEプランナーとして、沖縄で開催される会議の誘致や運営に携わってまいりました。グループ戦略室での業務は学生時代に学んだ経営学が、実際の業務の基礎にあるという事を改めて認識させられる機会が多くあり、ゆっくりではありますが一つずつの業務を勉強させていただき、一日も早く皆様の戦力となれるよう精進して参りますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。



大阪支店

山内 美波

この度、10月1日付で契約社員に採用頂きました山内美波と申します。
大阪支店での勤務初日に関西弁という一大イベントを経験し、錚々たる顔ぶれの中ご挨拶の場を設けていただき幸先の良いスタートを切ることができました。
船会社の業務は初めてのことばかりで自分の不甲斐なさを痛感していますが、支店の優しくも頼もしい先輩方のフォローのおかげで毎日助けられて感謝の気持ちでいっぱいです。大阪の独特な雰囲気とスピードの速い関西弁に圧倒されないように、私も一日も早く「琉球海運」の力となれるよう精進して参りますのでご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

サバイバルトレーニング 2019

8月19日(月)、船員会館及び泊埠頭にて船員災害防止協会による遭難時における船員の生存対策に関する教育訓練を目的としたサバイバルトレーニングがありました。船員会館にて安全管理士による講演とDVDを視聴した後、膨張式救命筏の構造と取扱説明及び実技を技術講師の指導の下、泊ふ頭2号岸壁にて行いました。

毎年本社の若手2人が選ばれて実演するのですが、今年は外航課の棚原さんと毎年お馴染みとなりました総務部の山入端さんが安定の飛び込みをしました。救命筏を使っての実演は、冷静さを保ちつつ2人の息を合わせて元の状態に戻さないといけないため、想像以上に大変そうでした。日頃の訓練の重要性を改めて感じました。



ひっくり返った救命筏



二人の力で元に戻す！



さすが海の男。お疲れ様でした。

激闘！フットサル大会

9月27日（金）沖縄セルラーパーク那覇で琉球物流様VS琉球海運のフットサル大会を催しました。日頃の不満をここで発散するかのように、激しい戦いが繰り広げられました。鈍った身体を一生懸命動かす人もいれば、鍛えたカラダを使って全力で戦う人もいれば…。

スポーツマンシップにのっとり熱い激しい戦いをおこなった結果、今回は負けてしまいました…が結果が全てじゃない！戦った相手を讃えること、同じ時間をともにすること、ともに汗を流すことが重要なんです。汗をかいた後のビールは格別ですよ。

琉球物流様、琉球海運メンバーもお疲れ様でした。



激走！第18回尚巴志ハーフマラソン

11月3日（日）文化の日に第18回尚巴志ハーフマラソンが南城市で開催されました。当グループからも職員が参加し、激走いたしました。

本番に備えてコンディションを整えることが出来なかった…と嘆く参加者もいましたが、みなさん力いっぱい爽やかに走っていました。

毎年結果をお伝えことにドキドキするのですが、今年も全員完走とはいきませんでした。しかし参加すること、走ることに意義があるのです。走った後にお互いを労う、脚が痛いと言いながらビールを飲む、その時間が大切です。

琉球海運グループのランナーの皆さん、お疲れ様でした。



～ポイント！マラソンを完走するコツ～

マラソンに参加したいけど完走できるか不安…そんな方にアドバイス！
来年こそは皆で完走目指しましょう



【前日まで】

- ・三ヶ月前から週に二回は練習する
- ・大会当日の気温に慣れておく
- ・大会当日に使うシューズやウェアで練習をする
- ・前日はストレッチやマッサージを念入りにする

【当日】

- ・朝食は必ず取る（2時間前までに炭水化物を）
- ・帽子とサングラスを準備する
- ・給水はこまめに取り
- ・前半は絶対に飛ばさない

AFTERNOON

TEA TIME

「モモ」ミヒヤエル・エンデを読み返してみた

とある日・・・え、もう10月？1年が過ぎるのがほんと、早いっ！シニアって幾つかからでしたっけ？・・・とかなんとか思いを巡らせながら紙袋ごと回ってきた古本の背表紙を眺めていたら、「モモ」が入っていた！！懐かし～と思ってページを捲ると、自分でもびっくり！ワクワク・ドキドキしながらそのまま一気に読み切ってしまったんです。面白いと思える本が偏っている自覚はあって、それにしても最近夢中になれる本に出合っていないな～と軽く凹んでましたが、何のことはない名著は時を経て尚、心を驚掴みにするチカラがあるのですね。

時間泥棒の「灰色の男たち」から仲間を守った小さな「モモ」のお話ですが、改めて読むと、人生を豊かにする重要なエッセンスが全て入っていて、良書と言われる所以に深く思い至りました。

本を閉じ、ふーっと息をはいて、自分の人生はまさに灰色男に乗っ取られていた？？とモモの目で人生を俯瞰することとなった。「幸せ」・・・になる為にあれもこれも必要だと思ひ込み、それを手に入れるため頑張って働いて、しかーし手にしたモノは更にそれを維持する手間とお金を必要とする。自分の管理能力を超えてモノを持つことがいかに人生（時間）を損なうかを痛感して、断捨離という考え方に行きつき、やっと自分と向き合うことが出来つつある・・・と思う。灰色の男たちが重きを置く価値観は、「成功すること」や「効率」。思考を管理され、こころを疎かにした価値観で育てられた子供たちがどうなるか？属する社会は！？生き辛さに苦しむ多くの人を抱える現代社会に警鐘を鳴らすかのようなエンデの作品は1973年に刊行されました。子育ての時期、私は灰色の男たちの価値観を良しとしながらも両親の介護やトラブル続きで、幸いにもそれを子供たちに強要する時間がなかった。（笑）確かに子供の持つ底知れぬパワーは「遊び」を通して生まれ、そんなワクワクする内側から湧き上がっ

『モモ』ミヒヤエル・エンデ著
（岩波少年文庫 一二七）



てくるような「希望」にこそ現実を変える力があるというのは実感としてわかります。その延長線上に「希望」を失わない魅力的な大人たちがいることも！

3.11で大自然の圧倒的なパワーの前に人間の無力さを思い知らされ価値観が一転した時、地球環境は自浄作用の限界を超えたとされるまで損なわれ、ホラーのような海洋プラスチック問題も最早リアルとなった。「モモ」や「ナウシカ」のようにファンタジー形式で、人の在り方、人と自然の歩むべき道を示唆する物語に感銘を受けてせめて地球を汚すまい！とEMの米のとぎ汁発酵液を作っていたこともあったっけ。「変えられるものを変える勇氣、変えられないものを受け入れる心の平穏と、両者を識別する知恵を与えて下さい」・・・という祈りの言葉に力を得て、私にできることは内なる平和の実現だけだ（これも十分に難しい）と自分を慰めたものです。

齢を重ね、残り時間の過ごし方・バランスを今一度じっくりと考える時がきています。

お陰様で今、自分を取巻く環境には感謝しかありません。時間とは生きることそのもの。

「自分の時間」を生きられなければ、人間はほんとうの意味で「生きている」とは言えないし「幸せ」を感じることはできないのかもしれない。あなたにとって不必要なモノや思い込みを手放して本当に大切な人・モノ・スタイルにフォーカスする。そしてその決断に責任を持つ。

人生は永遠のトライ&エラー、それを楽しむことのできるタフなマインドが欲しいものだ。

キーワードは真剣に「遊ぶ！」。そして、その楽しい・嬉しい時、困難な時を共有してくれる家族、仲間を大切にすることを疎かにしてはいけないなと心から思います。

（榎きょうはい 久場

記念記念すべき
令和2020イヤー

RKK

RYUKAIグループ
ぬりえ大募集!

対象年齢 小学生以下

詳細は次号にて発表!

第159回 三ヶ月会コンペ開催

		グロス	ネット
優勝	崎山 傑 (琉球海運)	95	61
準優勝	松本 博雅 (ロジカルサポート)	72	67
3位	長嶺 直 (琉球海運)	89	67
ベスト グロス	松本 博雅 (ロジカルサポート)	72	



おめでとうございます!

八月十七日(土)、沖縄カントリークラブにおきまして、「第二五九回 三ヶ月会」が開催され、白熱した戦いが繰り広げられました。
結果は左記の通りです。

三ヶ月会

第160回 三ヶ月会コンペ開催

		グロス	ネット
優勝	高安 直喜 (沖縄急送)	85	62
準優勝	与那覇 悟 (琉海ロジスティクス)	94	63
3位	松田 恵 (沖縄港運)	104	68
ベスト グロス	松本 博雅 (ロジカルサポート)	82	



おめでとうございます!

十月十九日(土)、沖縄カントリークラブにおきまして、「第一六〇回 三ヶ月会」が開催され、白熱した戦いが繰り広げられました。
結果は左記の通りです。

表紙説明

台湾十分にある「十分瀑布」という滝で、日本語でじゅうふんぱくふ、中国語でシーフェンブーと読みます。幅約40メートル、落差約20メートル、台湾最大のカーテン型の滝で、半円形の形状とその美しさから「台湾のナイアガラ」と呼ばれています。ナイアガラの滝と比較すると規模は劣りますが、かなり大きな音をたてて流れる水の量は、実際に見ると凄まじい…。

十分といえば他にもランタン上げが有名ですが、台湾を訪れた際には十分瀑布でマイナスイオン浴びるのはどうでしょうか。入場無料で、かなりおすすめですよ!



ご結婚おめでとうございます! ございます!

琉球海運(株)東京支店の名嘉山大助さんと千秋さんが、令和元年10月10日に入籍いたしました。お二人で幸せな家庭を築いてください。

Live,Love,Laugh,and be Happy!

MORE ABOUT RKK



勇王丸 9月8日那覇入港



RKK中城総合物流センター 内覧会 (沖縄タイムス)



アララガマ魂語る (琉球新報)

「秋季号」発行の11月、沖縄もさすがにひんやりとしてきました…が、衣替えの調整期間ギリギリまでかりゆしウェアを着てやろうと思っている筆者。

実は10月末に流行性角結膜炎にかかってしまい、目が真っ赤に。そして眼科で処方されたのが軟膏…。夜寝る前に眼球に塗って下さいね～と言われたのですが、まさか眼球に軟膏を塗る日がくるとは。

それはさておき、インフルエンザシーズンのこの時期、ワクチン接種や手洗いうがいなど皆さんも予防の徹底して下さいね。

仲村

編集担当者のつぶやき